

日光医療センター通信



獨協医科大学日光医療センター

Dokkyo Medical University Nikko Medical Center

Vol.

7

2009.7 第7号



主な内容

- 診療紹介（膠原病・アレルギー内科）……………2
- 部門紹介（医療安全部）……………3
- 各種検査の紹介（超音波検査）……………4
- お知らせ（消防訓練の実施）……………5
- 旬を食べよう ……………5
- 病院への手紙・求人情報 ……………6



診療紹介 シリーズで当センターの診療内容についてご紹介いたします。

▶ 膠原病・アレルギー内科

膠原病・アレルギー内科 診療科長 戸田 正夫

すでに呼吸器内科外来の一部として、アレルギー・喘息および膠原病の専門外来を開設しておりましたが、4月からアレルギー性疾患および膠原病専門の診療科として新設いたしました。スタッフ数の関係で当分は従来どおり呼吸器内科と共に診療を行ってまいります。今後患者様の増加とともに診療システムを拡充していくつもりです。

● 膠原病とは

表1に示す疾患の総称が膠原病ですが、捉えどころのない病気という印象でしょうか。「膠原病」という呼称は、例えば、肺炎とか肺癌を「呼吸器疾患」、狭心症とか心筋梗塞、心不全を「循環器疾患」と呼んでいるのと同じように考えて頂ければよいでしょう。

さて、では膠原病とはどのような病気なのでしょう。

■ 血液の病気？

捉えどころがないのは、病気の本体が特定の臓器に限定されないからです。強いていえば、病気の本体のある場所は「血液」といえますが、貧血や白血病などの「血液疾患」とも異なります。血液のなかでも、「免疫」を司る、一部は、白血球に属する一連の細胞群のシステムに異常を来した疾病といえるでしょう。

■ 免疫系の異常 → 自己免疫

免疫とは通常、外因性の病原微生物や有害な物質などの「外敵」に対する、体内への侵入、定着を防ぐための働きで、これらに対して傷害を与え、不活化します。この免疫が時として正常の自分の組織や細胞に対して傷害性に働く異常を生ずることがあります。これを「自己免疫」と呼びます。要するに免疫異常により自分で自分を攻撃してしまう病気なのです。自己免疫疾患のうち、病気は特定の臓器に限定しない、全身性（炎症性）の疾患を、膠原病といいます。自分の細胞の異常により、自己増幅を繰り返し、正常の細胞を侵す病態は、「癌」と似ていなくはないかもしれませんが。あるいは、時に癌以上にやっかいになる病気です。しかし少しずつ研究も進み、病態も解明されつつあり、また新たな治療薬や治療法も開発されてきており、予後も以前に比べ改善してきています。

■ 全身性の炎症性疾患

症状は全身性です。

原因不明の発熱や関節痛、筋肉痛、また皮膚の異常、口渇、ドライアイなどの異常がある方はご相談下さい。（呼吸器内科にご相談、ご紹介ください。）

表1

<p>膠原病・血管炎症候群 (現在では、膠原病とその周辺疾患のひとつである血管炎症候群を合わせてこう呼ぶ)</p>
<p>関節リウマチ (RA)、全身性エリテマトーデス (SLE)、全身性硬化症 (強皮症)、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性結合織疾患 (MCTD)、シェーグレン症候群、全身性血管炎 (高安病、結節性多発動脈炎、ウエジナー肉芽腫症、チャージ・ストラウス症候群など)、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症など</p>



典型的な関節リウマチの関節変形

表2

<p>膠原病・血管炎によくみられる症状</p>
<p>発熱、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感、レイノー現象、手のこわばり、口内炎、口腔乾燥症、ドライアイ、湿疹やアトピー以外の種々の皮膚や爪・指先の変化、原因不明の頭痛、原因不明の結膜の変化、血痰・咯血、血尿など尿の異常など (これらの症状があれば、すなわち膠原病という訳ではありませんが、それぞれの専門科にかかっても原因不明、または難治の場合には膠原病である可能性もあります。)</p>



部門紹介 シリーズで当センターの各部門をご紹介します。

▶ **医療安全部**

医療安全部
医療安全管理者 工藤 孝子

医療安全は、医療の質に関わる重要な課題です。また、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。当センターでは、「安全で安心な医療の実践」が基本方針であり、患者様が安心して安全な医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供することを通して地域社会に貢献することを目指しています。

医療の高度化、複雑化に伴い医療現場には様々なリスクが存在します。しかし、人間は完璧ではありません。「人間はミスをする者である」事を前提に、個人では防止しきれない問題を組織全体の問題として捉え、組織的、系統的に対策を講じています。例えば、「ヒヤットした」「ハットした」で留まるような事例を、病院長を初め全教職員が問題として認識し、再発防止に取り組んでいます。

主な業務内容は、「インシデントレポートの提出の徹底」、「報告内容の原因分析」、「対策実施」、「マニュアル整備」、「院内へのフィードバック」、「活動の周知徹底」、「研修会の企画、運営」、「院内パトロールの実施」、「ニュース発行による情報提供」、「医療事故の対応」など多岐に渡っています。その取り組みは、とても地味で果てしなく広いものですが、問題の現状把握と対策実施が医療安全のための基礎資料となり、それを基に、日々の患者様の安全確保は勿論、医療従事者の安全確保の為に、患者様やその家族、医療従事者がお互いに安心して関わることが出来るよう、組織として、また個人として考えていくことが、医療安全部の目指すべき大きなテーマといえるでしょう。

- 医療安全研修会〈職員全員対象〉
- リスクマネジャー研修会
・ KYT(危険予知訓練) ・ RCA根本分析
- 指差し呼称によるエラー防止
- 職場での5S活動推進

例えば、こんなことをしています。・・・



「パトロール風景」



「医療安全研修」

このようにして、日々、医療安全対策の実施と推進に励んでいます。

☆患者様の医療安全推進への参加について☆

〈患者様へのご協力のお願い〉

医療安全への取り組みに努力してまいります、患者様のご協力も欠かせません。

◆リストバンドによる患者様確認のお願い◆

入院患者様のリストバンド装着
リストバンドには、患者様のカルテ番号、氏名、性別、生年月日などの情報がバーコードにより記載されています。点滴や注射の際、より確実な患者様確認を行うためのものです。
確認作業は、夜間、睡眠中も行うことがありますので、ご協力をお願いいたします。

◆名前の確認方法について◆

患者様の確認はフルネームで患者様本人に言っていただいております。
同姓同名の方には、生年月日を伺って確認をしています。
患者様の誤認防止のため、是非ご協力をお願いいたします。

疑問や不安は、積極的に職員へお尋ね下さい。また、患者様ご自身のお名前を、はっきりとお申し出ください。これが患者様ご自身の医療安全推進への参加なのです。

各種検査の紹介 シリーズ（全5回）で当センター臨床検査部で実施している各種検査をご紹介します。

第1回目は超音波検査の内容をご紹介します

▶ 超音波検査とは…

超音波を出す動物（生物）には、コウモリやイルカがいます。コウモリは、超音波を出して木などの障害物にぶつからないで飛ぶことができます。一方、イルカは、超音波を出して仲間とコミュニケーションをとっているとされています。また、人間の生活では、漁船に搭載されている魚群探知機に超音波が使われていて、魚の群れを見つけるのに役立っています。

検査で使う超音波の画像を見ると、白と黒とグレーで何がわかるのだろうと思われるかもしれませんが、例えば、腹部の検査では、胆のうの中にある石や、肝臓や腎臓などの病気（癌など）がわかります。心臓では、心筋の厚み、大きさ、弁の開放、心臓の動き、血液を押し出す量などがわかります。さらには、乳がんや、甲状腺の病気、動脈硬化や血管の中に血栓ができていないかなどもわかります。また、超音波は人体に害がないため、お腹の中の赤ちゃんの成長を見たり、産まれる前の病気を見つけることもできます。

超音波検査は、痛みがなく、体にやさしい検査ですので、何回でも安心して検査を受けることができます。

当センターの超音波検査は、社団法人日本超音波医学会の資格を受けた超音波検査士（ソノグラファー）が行っています。



（超音波診断装置）

（超音波に使用するプローブ 左から腹部用、体表用、心臓用）

お知らせ

当センターでは夏期の間、省エネルギー、地球温暖化対策の一環として、男性職員はノーネクタイにて対応させていただいておりますので、ご了承の程よろしくお願いたします。

なお、ノーネクタイの職員は右記のバッジを着用しております。（管理課）



お知らせ（消防訓練の実施）

去る7月9日（木）午後3時から、1号館1階泌尿器科外来前付近を火元として、午前11時に火災が発生したことを想定した消防訓練を実施いたしました。

今回の訓練は、初めて火元を病棟以外に設定し、非常時における外来患者様等の安全確保を図ることを目的として、当センターの自衛消防隊が迅速かつ的確に通報連絡、初期消火、避難誘導等を行うといった総合訓練でした。

総勢47名の訓練参加者は皆、各々の任務を真剣に遂行することができ、訓練実施後、日光市消防本部藤原消防署の係官から、「全体的に冷静に対応できており、非常に良い訓練であった」との講評をいただきました。

なお、当センターでは、今後も、火災発生時の措置判断や行動能力の向上を図るため、適時適切な訓練を実施していきたいと考えております。



旬を食べよう

えだまめ

暑い夏の季節がやってきました。

この時期に旬を迎えるのが枝豆です。

大豆が熟さないうちに枝つきそのまま収穫することから、枝豆という名前が付けられました。枝豆は、大豆と同じように栄養価が高く、カルシウム、鉄、リン、ビタミンB1、B2、Cが豊富に含まれています。

たんぱく質、脂肪、でんぷん質なども含まれ、よい食品ではありますが、消化が悪いので、よくかむことと、多食をしないように心がけましょう。

また、夏が旬の枝豆は、爽やかな緑色と独特の歯ざわりを楽しめる食べ物です。料理を引き立てる青みとしても大いに利用し、季節感を感じましょう。



《 見分け方 》

- 枝豆の実がよく成長していて、緑色が濃く、さやの中の豆のふくらみがはっきりわかるもの。
- 黄ばんだり、さやが未熟だったり、熟しすぎて堅いものはさけましょう。

《 調理の注意点 》

- 少し多目の塩でもみ、細かい毛を除いて熱湯でゆでて、緑の美しいとき、ザルにあげて風でさめます。
- 水にとると、水っぽくなるので気をつけましょう。

《 美味しい食べ方 》

- 枝豆ごはん・・・ゆでてさやから出してごはん混ぜます。
- ポタージュスープ・・・ゆでて、スープ煮にして裏ごししスープに入れます。
- 和え物・サラダ・・・ゆでた豆をいかやえび、かまぼこなどとり合わせてあえます。
- 揚げ物・・・えびなどとかき揚げにします。

（管理栄養士 阿部 由紀恵）

病院への手紙にお答えいたします

～当センターの各所に設置してあります、ご意見箱に寄せられた

患者様からのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

ご意見・ご要望

●外来待ち時間について

<47歳 女性、77歳 女性>
予約時間の意味がないほど待たされる。
(平均1時間半～2時間)

お答えいたします

大変ご迷惑をお掛けしております。病院全体で患者様の待ち時間が短縮できるように努力しているところではありますが、曜日によって、予約患者数や診療内容が異なる関係上、待ち時間が長くなってしまふ場合がございます。当センターでは教職員一同、患者様の希望に少しでも添えるよう、今後とも引き続き、患者サービスの向上に努力してまいります。

ご意見・ご要望

●新聞の販売について

<68歳 男性>
自動販売機などで早朝から新聞を販売して欲しい。

お答えいたします

新聞を購読されたい方につきましては、現在のところ1階売店で購入していただくか、入院患者様の場合は個別に新聞店にお申し込みいただき購読していただいております。なお、自動販売機による新聞の販売は諸事情により現時点では困難な状況でございますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

当センターと一緒に働いてみませんか？

理学療法士募集

当センターでは、運動器・呼吸器リハビリテーションの経験がある理学療法士（有資格者）を募集しています。

詳細については、ホームページ

(<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/bosyuu/kyujin090710.html>)

をご覧ください。管理課庶務係

(TEL 0288-76-1515 内線308)

までご連絡ください。

平成22年4月採用看護職員募集中

平成22年度看護職員採用試験

1回目 8月29日(土)〔応募締め切り 8月22日(土)〕

2回目 9月26日(土)〔応募締め切り 9月18日(金)〕

3回目 10月24日(土)〔応募締め切り 10月16日(金)〕

平成21年度採用については、随時対応いたします。

詳細なお問い合わせは

TEL 0288-76-1515 (内線270) 看護部

編集後記

新型インフルエンザの国内発生で、神戸での学会が突然の延期。宿泊から交通費までキャンセル料金が掛かり恨めしく思っていた頃、今度は栃木県内でも新型インフルエンザ発生。しかもわが子の通学する学校とあって、子供も突然の一週間の休校。母親が学校へ行っても校舎の敷地内は完全封鎖状態。まるで放射能漏れかと思われるほどの徹底振り。教室の机に忘れたわが子のお弁当箱はカビに侵略され多分廃棄処分の運命に。生徒たちは自宅軟禁状態で、塾もプール教室も暗黙の出入り禁止状態。それでも、県内の新型インフルエンザ感染者は増加傾向のままである。

私たち栃木県民が、よその県から来るなど言われないうように、手洗い・うがいをしっかりと。みんなで頑張ろう！（スノーマン）

日光医療センター通信 第7号

〒321-2593

栃木県日光市高德632番地

TEL 0288-76-1515 (代表)

FAX 0288-76-1611

<http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/indexj.html>

携帯サイト <http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc/i/>

発行年月日/平成21年7月28日

編集・発行/獨協医科大学日光医療センター広報委員会

印刷/株松井ビ・テ・オ・印刷

